

「三徳の家庭菜園」 ③②

【博多中葉春菊】～優しい香りで肉厚の葉に茎まで柔らかなシュンギク～

博多の郷土料理「鶏の水炊き」にはシュンギクが欠かせません。そして、この「水炊き」に合うのが、肉厚でやや淡い緑色の大きな葉に、柔らかな茎がスッと伸びた「博多中葉春菊」です。この「博多中葉春菊」を軽く湯通しして食べると、その葉と茎の心地よい歯触りとともに、優しい味と香りが口の中に広がります。そのため、水炊き等の鍋物の他、お浸しや和え物、サラダや簡単な洋中華食の素材としても美味しく食べることができます。

地中海沿岸を原産とするシュンギクは、中国に伝わり野菜用に改良され、我が国には室町時代に伝来し、春に黄色の花を咲かせるので「春菊(シュンギク)」の名が付いたと言われています。シュンギクの品種群は、その葉形等から、大葉種、中葉種、小葉種の3種に大きく分類されますが、「博多中葉春菊」は、関東地方等で作られている中葉種とは異なり、株が張らない節間伸長タイプの抜き取り栽培専用の中葉種にあたります。博多の地で選抜された伝統野菜なのです。

シュンギクの生育適温は15～20℃と涼温を好み、低温と高温・乾燥には弱いので、「博多中葉春菊」も春の3～4月と秋の9～10月が播種の適期にあたります。シュンギクの種子は発芽率が60%程度と低いので、やや厚まきにして芽が出たところで間引きをします。間引きは本葉2枚の頃に2～3cm間隔とし、さらに本葉5～6枚の頃に5～6cm間隔で行い、播種から30～50日後の草丈が15～20cmになったら順次抜き取りで収穫します。



●収穫間近の「博多中葉春菊」。



●水炊き等の鍋物の他、湯通ししてお浸しや和え物、サラダや簡単な洋中華食としても美味しい「博多中葉春菊」。

福岡県農業大学校 非常勤講師 林 三徳

知って得する郷土の食文化 ② 高菜(タカナ)

高菜はアブラナ科の変種で20～60cm位の丈に成長します。原産地は中央アジアで中国から日本へ入ってきたと言われ、平安時代にはすでに高菜の記述が見られるため、この頃に日本へ伝えられたと考えられます。西日本一帯で広く栽培されています。漬け物用として、野沢菜、広島菜と共に日本三大漬菜に数えられます。八女地方でも阿蘇高菜や三池高菜の栽培が盛んで高菜漬けとして食べられています。改良種としてコブ高菜、まき高菜があります。



*高菜の目はり巻き

■材料 高菜漬(一夜漬けしたもの)、炒り胡麻少々、醤油少々

■作り方 ①高菜漬の茎と葉の部分を切り離しておく。②茎の部分をみじん切りし、炒り胡麻・醤油数滴をご飯にまぜる。③ご飯をおにぎりにし、高菜の葉で包む。

*高菜のかぶ焼き

■材料 茹でた高菜250g、だし汁100cc、薄口醤油50cc、みりん50cc、油大さじ1、角天1枚(竹輪やゴボウ天など何でもよい)

■作り方 ①茹でた高菜を3～4cmに切り油で炒め、1cm位に切った角天と一緒にだし汁・調味料で炒め煮にする。

*高菜の一夜漬け

①小高菜を洗い水気を切り半日くらい陰干しにする。塩10%をふり、まな板の上で汁が出るまで優しく塩もみする。ポリ袋に入れ、上から唐辛子をふり、空気を抜いて密閉し一晩置く。次の日から美味しく食べられます。

樋口 愛子(八女市)

講道館護身術講習会

■日時: 毎月第三日曜日 19時15分～20時45分 ■会場: 八女市総合体育館 1F 柔道場 ■主催: 福岡県警友会八女支部 ■受講料: 無料 ■講師: 大塚敏幸(元福岡県警察官) ■問合せ: 大塚 090-1874-5683 四月から、就職して頑張る方、進学で勉強部活に頑張る方、通勤通学で帰宅時間が遅くなる方など、環境が変わる前に講道館護身術講習を受けてみませんか? 八女警察署管内でも女子学生への声掛けや男子中学生に対するつきまとい等の性犯罪の前兆犯罪が多数発生しています。昨年の講習は、7月に2件発生した小学女児連れ去り事件の対応要領を重点に講習しました。あなたの知らない自分の身体の使い方や仕組みを知れば意外と簡単にできます。

黄櫨の会 公開講座 聴講無料 日 4月16日(土) 13:30~ 場 八女市社会福祉会館

たけのこ 大釜ゆがき 4月の道の駅たちばな

九州国立博物館 会期 3月15日～6月12日 観覧料 一般1600円(1400円) 高大生1000円(800円) 小中生600円(400円) (一)内前売り。

読者プレゼント ペア5組(10名)の希望の方は住所、氏名及びイベント名明記の上(株)東兄弟へハガキで応募下さい。4月5日締め切り、希望者多数の場合は抽選により発表とします。

特別展「始皇帝と大兵馬俑」 乱世を勝ち抜き天下統一を成し遂げた秦の始皇帝はみずからの大な陵墓を造らせ約八千体の陶製の軍隊「兵馬俑」を埋めさせました。1974年に発見され、今なおつづく兵馬俑の発掘は、始皇帝の知られざる歴史を次々と明らかにし新しい驚きをもたらしています。本展では始皇帝と秦王朝にまつわる貴重な文物を一堂に集めて紹介します。



初めて、多角的に紹介する。日本ではイメージする「魔法の魔女」の姿とは。絵画やまじない道具、魔法裁判に関する書物や資料、拷問道具など、日本初公開を含む約100点を一堂で紹介し、妖しくも悲しい魔法の魅力と歴史の真実を紐解いていきます。



筑後俳句会 船唄に合はす手拍子柳の芽 石垣を行つり来たり尉鶴 留守番は猫の親子や春炬燵 水温む網をつくるふ老夫婦 摘む草の手よりこぼるる野の光 啓蟄や杖を相手に野路歩む 対岸の菜の花明り暮れなづむ 病みし身の見上ぐる空に辛夷咲く

八女紫苑句会 地球儀をそつと回して去年今年 幼な友計報受くるや六花舞ふ 春うらら外にも出でよと娘のメール 極寒に萎れし鉢の命かな ようやくに梅のほろぶ庭となり

立花町立花俳句会 裏かいて雪沖繩を凍らせる 春の夢続きを見たし亡母の笑み ともかくも日の丸掲げお建園日 雪を捨て気球紙張りし冬ありき 雪の朝まゆみの紅の絵のごとし スマホの手休めず授乳春隣 日脚伸ぶ散歩の距離を延ばしけり 日をたぐり生きし証しを記す春

黒木町くすの実俳句会 雪被る無人駅舎の孤独かな 遠近に狼煙のごとき野火上がる 冬帽子企業戦士でありし日も 髪切つてひと区切りとす春隣 ミサイルの弾道朱く凍て返る そぞろ寒せめて今宵は爛の酒 駄菓子屋ののど飴やさし冬の里 万年青いま赤き実ひとつ春を待つ

上陽町陽泉俳句会 春立てど余韻のごとき余寒かな 薄氷を踏めば微かに軋む音 表札は孫の手書きや春隣 文明の切り離されて雪しまく 日脚伸ぶ草引く背中を照らしつつ 気苦労か少しお老けの内裏難 春雷をうつつに聞くや病の床

クラッシー文芸